

平成 29 年度
平野屋新田会所 市民サポーター一会議 活動報告書



平成 30 年 3 月 31 日
平野屋新田会所市民サポーター一会議

はじめに

「平野屋新田会所市民サポーター会議」は発足から丸3年経ちました。昨年度からは自主性を持つ組織へ発展させようと部会体制を整え、今年度は会議役員体制と規約などを整えつつ新田会所跡の環境保全や新田会所跡への見学会、パネル展示等市民への広報活動を行いました。また、府下に残る四新田会所の交流活動(四会所交流事業)に参加し、大東市の新田開発の歴史と新田会所の存在を広く府下に知らせ広める取り組みを進めました。さらに、市内の諸団体と共催して会所建築に特化した四会所見学会を行いました。

加えて今年度は、会所周辺に今も姿をとどめている水路や樋門、そして江戸時代からの水利体系(井路網と樋門、水管理の歴史など)の調査にも着手しました。この調査は、大東市都市計画審議会委員の松本裕先生や大東市文化財保護審議会委員の市川秀之先生、市史編纂委員の岡村喜史先生をはじめ、歴史民俗資料館の学芸員の皆さまのご教授も得て、しっかりしたものにしていく計画です。

年度半ばからは、サポーター会議の広報紙「ひらのや新田会所 かわら版」を発行しました。二号紙面には、地元の平野屋に開発当初からお住まいのお宅である野口貢様の貴重なインタビュー記事を掲載することができました。

私たちは、新田開発と新田会所、水路や樋門などの貴重な新田「遺産」がこれからの大東市の発展に役立つ「財産」そして未来の市民として子ども達の「財産」になるように活動を続けていきたいと考えています。

その活動の様子とこれからの思いを報告書にまとめました。ご一読頂けたら幸いです。

平成30年3月吉日

平野屋新田会所市民サポーター会議一同

もくじ

はじめに

I 平成29年度活動報告

《1》 活動日誌	1
《2》 平成 28 年度活動報告会の開催	3
《3》 各部会の活動の詳細	
1 展示・広報活動	5
① 「だいとうクリーンウォーク&環境フェア2017」に出展	
② 「だいとう博覧会 in アクロス de サマーフェスタ」に参加	
③ 広報紙発行	
2 見学会やガイド活動	7
① 「大東ウォークラリー」に協力	
② 三会所見学会	
③ 寝屋川からの会所跡見学会案内	
3 交流活動	8
4 魅力発信活動	9
① サポーター会議のシンボルマーク作成	
② 「平野屋新田会所屋敷地全体想像図」作成	
③ 「大東の観光(ひかり)講演会」で活動を報告	
5 会所跡の草刈作業	10
《4》 水路調査活動	11
1 谷川地区水路調査報告	
2 平野屋・平野屋新町地区水路調査報告	
3 南新田地区水路調査報告	
《5》 四会所交流事業	14

II 資料

《1》 野口貢さんインタビューの詳細	15
《2》 ひらのや新田会所かわら版(縮刷版)	
1 創刊号(2017年9月発行)	17
2 第二号(2018年2月発行)	21

おわりに

平成 29 年度 平野屋新田会所市民サポーター会議名簿

《 1 》 活動日誌

- 29.4. 8(土) 平成 29 年度第 1 回サポーター会議
28 年度報告書の作成と活動報告会の開催準備
4. 12(水) 大東市長に報告 (報告書を持参しサポーター会議の活動を報告)
4. 18(火) 四会所交流事業 (鴻池新田会所)
4. 21(水) 活動報告会準備
4. 22(土) 活動報告会 (午前 10 時～12 時 大東市市民会館)
5. 12(金) 東部 JA 訪問 (活動報告書を持ってサポーター会議の活動を説明する)
東部 JA 組合員さん向け広報誌への投稿の依頼を頂く
5. 29(月) 会所跡の草刈り作業 (午前 9 時～12 時)
6. 4(日) 「だいとうグリーンウォーク&環境フェア 2017」に出展
6. 10(土) 総会と第 3 回サポーター会議
会則の改訂を継続案件とし、次回サポーター会議の日に継続総会として改訂会則を検討することにした。定理会議では、各部会構成を確認
6. 22(木) 樋門・水路予備調査 (午前10時～12時)
会所跡から銭屋川沿いを雷樋門までたどる
6. 26(月) 南新田東水路 (銭屋川上流部) について
南新田の川路さんと懇談
6. 27(火) 四会所交流事業 (於:加賀屋新田会所)
7. 6(木) 樋門・水路調査 (午前10時～12時)
市民会館前から谷川方面をまわり深野会所跡をみる
7. 8(土) 第4回サポーター会議
継続総会で規約と29年度役員・会計監査を確認し、定例会議では各部会からの報告提案事項を検討。広報紙の発行計画開始
7. 16(日) 「大東博覧会 in アクロス de サマーフェスタ」 (10時～15時 アクロス3階市民ギャラリーA) に参加
8. 6(日) シンポジウム「新田会所のすべて」 (午後1時半～4時半 アクロス多目的室) に共催参加
8. 12(土) 第5回サポーター会議 市川先生水路案内
8. 23(水) 草刈り作業 (午前8時半～12時)
8. 24(木) 四会所交流事業 (於:大東市市役所厚生棟) 会議の後、深野新田会所跡を見学
9. 9(土) 第6回サポーター会議
各部の取り組み状況報告確認。ガイド部会見学会コースと下見の検討
9. 12(火) 広報紙創刊号発行
9. 15(金) 水路調べ計画立案チームの初会合



- 9.20(水) 南新田区長宅訪問
水路調査の計画を報告し協力の依頼をする
- 9.21(木) 谷川区長宅訪問 (水路調査の報告と協力依頼)
- 9.22(金) 平野屋区長宅訪問 (水路調査の報告と協力依頼)
- 9.26(火) 見学会コース下見 (午後1時住道駅前出発)
- 10. 4(水) 草刈り作業(午前8時半～12時)
- 10.14(土) 7回サポーター会議 (水路調査チーム編成し作業に着手。やまびこ「11.11ウォークラリー」協力体制確認)
- 10.16(月) 平野屋新田会所文書を読み解く連続講座(午後アクロスにて)開始
共催事業として、10/30,11/6,11/20,12/11 実施
- 10.24(火) 四会所交流事業 (於:安中新田会所)
- 10.26(木) 第1回「現地見学会 新田会所って、どんな建物」(安中新田会所跡)
- 11. 11(土) やまびこ行事ウォークラリーで会所案内
- 11. 15(水) 第2回「現地見学会」(鴻池新田会所)
- 11.29(水) 第3回「現地見学会」(加賀屋新田会所)
- 12. 1(金) 平野屋区長宅訪問 (広報紙2号のインタビューについての依頼)
- 12. 4(月) ガイド部による見学会の予行
- 12. 8(金) 会所と樋門見学会 (寝屋川市文化財愛護推進委員依頼ガイド)
- 12. 9(土) 第8回サポーター会議 (水路調査、報告書、提案公募について)
- 12.16(火) 水路調査全体会議 (午後1時～3時教育委員会会議室)
- 12.19(火) 四会所交流事業(於:鴻池新田会所)
- 12.22(金) 広報紙1面インタビュー (午後2時～3時半 平野屋区長宅訪問し、
野口貢さんに終戦前後の会所や戦後の水路の様子を聞く)
- 29.1.13(土) 第9回サポーター会議
- 1.15(月) 広報誌編集会議 (午後1時アクロス)
- 1.16(火) 報告書と提案公募立案会議 (午後2時アクロス)
- 1.18(木) 親睦行事(昼食会)
- 1.20(土) 五ヶ所文書についての打ち合わせ (午後1時歴史民俗資料館)
- 2. 1(木) 平野屋区長宅訪問 (広報紙原稿確認と水路調査の協力依頼)
- 2. 3(土) 第10回サポーター会議 (提案公募、報告書について)
- 2.13(火) 大阪産業大学松本先生と相談
- 2.20(火) 四会所交流事業 於:(加賀屋新田会所)
- 2.21(水) 市川先生、松本先生と相談
- 3.10(土) 第11回サポーター会議
- 3.13(火) 水路地図製作作業

《2》平成 28 年度活動報告会

取り組みの経過について

会場:大東市立市民会館

期日:平成 29 年 4 月 22 日

当初報告会の予定は示されていなかったが、1月の定例会で「報告会をしたほうが良い」と発言した三人が実行委員になって企画することになった。また、提案公募について検討会が行われ平成 29 年度は見送ることになり、その中のメンバーが加わり四人になって活動できたことは大変心強かった。それぞれの持ち味を生かして次の様に分担をした。

藤井:場所・会場設営、柴田:当日の企画案作り、福本:広報・書記、豊芦:調整役。

26,27 年度の報告書は、一部への配布にとどまっていた。28 年度は 2 年間の蓄積を踏まえ広く市民に知らせる活動を展開してきた。そこで、その活動内容を知らせる場として、また、仲間を増やすことを目的にした。

さらに、出来る限りサポーターの顔が見えるように進行、設営、運営など分担するように心がけた。

(1) 企画

まず、実行委員メンバーがどのような報告会にしたいのかイメージを出し合い、何度も検討会を行うことが出来た。何よりも、サポーター全員が関わることを念頭にして、特に次の点を心がけて取り組んだ。

① 実行委員メンバーとしては、チラシを作成するにあたり、会所の顔としてありし日の表長屋門を考えたが、「踏車」を選ぶことにした。会場については、大東市の中心部の「市民会館」を選ぶことにした。また、報告会の進行や企画を考える上で参加者をどう引き付けるのかを検討した結果、照明を落として会所の全貌が分かる映像を見てもらうことにした。その時、映像「よみがえる平野屋新田会所」の制作に携わった中西さんに挨拶を兼ねて紹介していただいた。

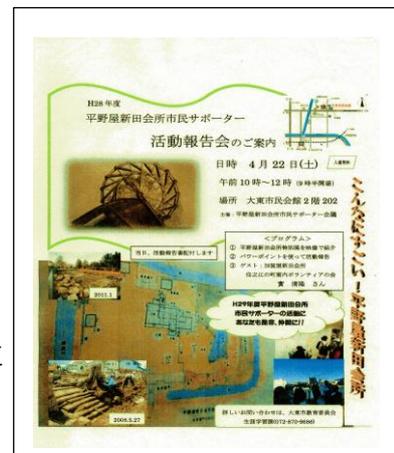
② 28 年度の活動報告については、検討した結果、パワーポイントを使い3つの分野で発表者を分担して行うことにした。

(2) 広報

今までと違うのは、区長や有力者、JA や産大訪問に取り組んだことである。(区長は、平野屋、谷川、南新田、御供田北・中、中垣内、泉町の 7 自治会区長)

その結果以下のような反応と効果が得られた。

① 谷川・南新田区長はチラシの回覧とポスターの張り出しを引き受けてくれた。他の



報告会のチラシとポスター



区長さんも快く対応してくれた。平野屋地域の役員さん訪問では、坐摩神社氏子役員会に宣伝して頂けることになった。

- ② JA 役員訪問の際、会報に掲載できるように検討すると言っていた。
- ③ 産大の松本先生との懇談では、今後の協力の可能性について話が盛り上がった。
- ④ 地域や JA にポスター 25 枚掲示。報告書約 20 冊を直接手渡した。
- ⑤ 地元から区長など 2 人の参加があり、質問の場で激励と訴えの発言をして頂けた。
- ⑥ 事務局と共に多数の参加のもとに報告書を作成し、活用ができた。

(3) まとめ

- ① 初めての取り組みで戸惑うことも多かったが、事前に進行・分担について検討しプログラムを作成して配布し、当日の運営が時間通りに行われた。サポーターの結束と今後(29年度)の取り組みについてのイメージが湧く結果となった。会所跡の活用に向って、その意義をより広め、より深める活動に展望をもたせ、大きい成果につながったと思える。今後の取り組みに活かすためには全員参加の忌憚のない「報告会」の総括の必要性をもとめる声もあった。
- ② 18 名のサポーター中 13 名が参加してそれぞれの役割を果たせた。
- ③ 会場設営については、細長い会場を横長に配置し、前日に市民サポーター制作の大判の「会所地図」を運び込み設置したことで全体の雰囲気を作り上げた。
- ④ 報告書を配布しパワーポイントを作成して報告したことは、初参加の人に分かりやすく興味が湧いたようだ。
- ⑤ 加賀屋新田会所ボランティアガイド代表の實清隆氏に快く参加していただき、対談形式にして時間内に収めたことは良かった。加賀屋新田会所への興味関心を引き出した



加賀屋新田会所の魅力を説明する實氏

ものの、内容についての調整不足でせっかくの實氏に十分な活躍の場が与えられなかったのではの声も数人からあった

- ⑥ 他団体の発言要請やチラシ配布についての事前検討があった方がよかった。報告会にはなじまないという声が多数あった。実行委員は誰も聞いていなかった所以对応がぎくしゃくした。次回からの教訓としたい。
- ⑦ 主目的の一つであった「入会のお願い」が語れなかった。
- ⑧ プロジェクターと照明については事前調整が必要である。
- ⑨ 事前準備(チラシやポスターの印刷)、当日の横断幕、会場設営など事務局の協力は助かった。⑩ 報告会終了後に入会者があり大変うれしいことである。プロジェクトチームの活動を生かして楽しい活動を展開したい声もあった。(「活動報告会実行委員会」の報告より)

《 3 》 各部会の活動の詳細

1 展示・広報活動

平野屋新田会所とサポーター会議の活動紹介

① 「だいとうクリーンウォーク&環境フェア 2017」に出展

・会場:北条公園(北条2丁目)

・期日:平成29年 6月 4日

・概要: 今回は「大東の環境の原点・新田と会所を覗く」をテーマにして参加した。大和川の付替え・新田開発が大東市域の環境変化をもたらし、純白の綿の花と水田の緑、稲穂の黄金の輝きをつくりだした歴史を市民と共に再認識すると同時に、会所と水路図、小型の水車(手押し水車)を展示した。

「昔の水路の記憶」を記入してもらおう「参加者の声」コーナーも設けた。昔の会所や水路の貴重な話が寄せられた。



踏み車を展示



展示コーナーの様子

② 「だいとう博覧会 in アクロス de サマーフェスタ」に参加

・会場:大東市立生涯学習センターアクロス 3階 市民ギャラリー

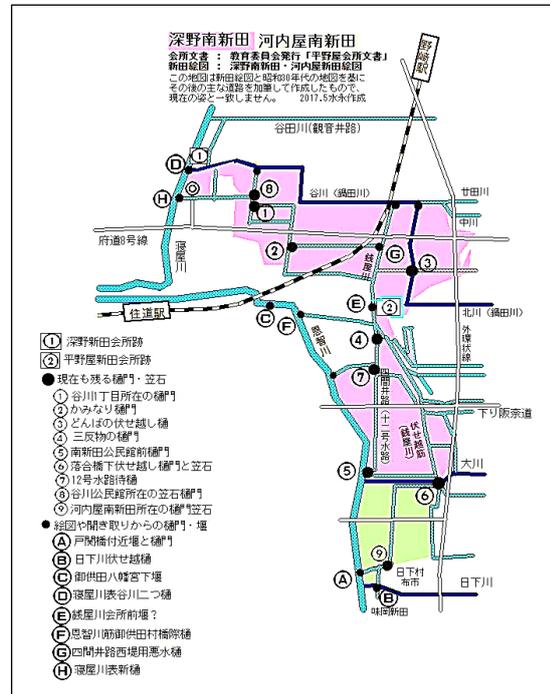
・期日:平成29年 7月 16日

- ・概要: アクロス主催の行事に参加し平野屋新田会所とサポーター会議の活動の広報活動を行った。平野屋会所と周辺の井路(水路)や樋門の様子を写真や簡単な解説のパネルで展示した。また、深野池の跡に開発された新田などがわかる大型の地図を展示し来場者に解説した。



〈写真上〉深野池跡に開発された新田地図で大和川付け替えや新田開発の歴史や当時の水路や樋門が今も残されていることなどを紹介するサポーター。

〈地図右〉サポーター会議が調べている水路や樋門の場所から新田の用排水の状況を示す地図。



③ 広報紙発行

「平野屋新田会所市民サポーター会議」が発足して3年目、目的意識を持つ組織、「会議」になって2年目で初めて、活動の「広報紙」を発行することができた。創刊号を昨年9月、第2号を今年2月に発行した。

会所跡保存の意義、そのための私たちの活動を、①さっと目を通していただける「チラシ」、②それらを映像で伝えられる「ビデオ」、③活字で読んでいただける各所への「掲示」に加えて、私たちの活動とその思いや、私たちと同じ思いを持っておいでの方たちの紹介など、写真つきでおうちに帰ってからでもじっくりと読んでいただける、広報紙「ひらのや新田会所 かわら版」を創刊しました。今後、発行の間隔は不定期だが、年間3～4回を目指している。

* 念のため資料として、巻末(資料《2》)に「創刊号」「第2号」を併せて再録しています。

2 見学会やガイド活動 街道・会所跡と深野南新田を案内

① 「やまびこ」主催「大東ウォークラリー」に協力

- ・期日:平成29年 11月 11日(土)
- ・概要: 受け持ったポイント(会所跡・坐摩神社など)の通過チェックと道案内を行った。会所跡では、求めに応じてパネルを示して簡単に解説した。参加者の安全確保と道案内が中心だったが、参加者の何人かから道を間違えてしまったとの案内の不備を指摘されたことは、教訓にしたい。



会所跡を訪れたウォークラリー参加者

② 三会所見学会

- ・期日:10月26日(木)安中新田会所跡
旧植田家住宅
11月15日(水)鴻池新田会所
11月29日(水)加賀屋新田会所
- ・概要:「新田会所って、どんな建物？」をテーマにして会所建物に焦点を当てた見学会。市民サポーター会議の仕事として、駅での受付をしたり会所までの道案内をした。



安中新田会所跡近くの水路を見学



鴻池新田会所の表長屋門の説明を聞く参加者

③ 寝屋川からの会所跡見学会案内

・期日:12月8日(金)

・概要: 寝屋川の市民の方々が、平野屋新田会所跡と周辺の見学会をしたいとのことで実施された。住道駅のデッキを出発し古堤街道の道標や河内街道、深野会所跡や樋門のガイドをしながら平野屋新田会所跡旧川筋跡を見て住道駅まで案内した。住道デッキでは、昔



は中之島が寝屋川と恩智川の合流地点付近にあったこと、大東公園付近では鍋田川の現在と過去についてガイドし、深野会所跡については、深野新田を管理していた様子を説明した。また、平野屋新田会所が銭屋川や堀で囲まれ、庭園をもつ広大な広さであったことなどを知ってもらうことが出来た。

3 交流活動

名札や活動紹介リーフレットを作成、聞き取り活動

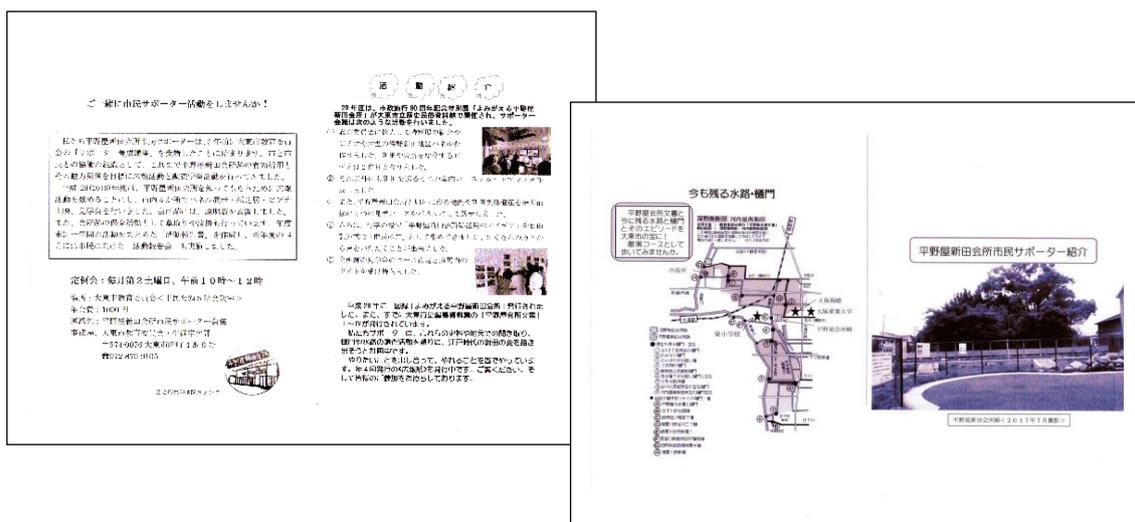
交流部会は地域とのつながり、交流を大切に活動している。そのために、リーフレットやかわら版などといった広報物の配布、市民サポーターとして様々なイベントやセミナーへの参加および運営の協力をおこなってきた。現在は水路調査の結果を地図にまとめている。

今後は、さらに広報物の配布を通じて地域との交流を深め、新田会所や周辺の様子の間

交流部会の主な活動内容

- ・毎月のサポーター会議への出席
- ・名札やリーフレット作成の提案
- ・完成した広報物の配布
- ・5月29日、8月23日、10月14日に行われた新田会所跡地草刈作業
- ・銭屋川や恩智川の水路調査
- ・懇親会の開催(1月18日 かがやき館にて)
- ・イベントやセミナーへの参加および協力

き取り調査につなげていきたい。また、地域との交流のみではなく、組織としての活動をよりスムーズにするためにも他の部会との情報交換や交流も必要であると考えている。



交流部作成の活動紹介・会員募集のリーフレット(右:表 左:裏)

4 魅力発信活動

展示と会所想像図やサポーター会議のマーク作成

① サポーター会議のシンボルマーク作成



シンボルマークは、新田開発と新田会所、そして水との格闘の歴史を象徴する踏車をモチーフにして、大東市の名前をアピールするために市の名称も表示した。

ちなみに踏車は、平野屋新田会所には解体時に完形12基、車のみ3基が残されていた。大きいものは車直径186cmあり、歴史民俗資料館の調べで全国的にみても最大級の大きさを誇るものであることがわかっている。

また、大東市の西部に位置する諸福では、踏車製造が盛んで近畿一円に「諸福ブランド踏車」として送り出していた。このことから、踏車のモチーフは大東市と平野屋新田会所を示すシンボルとしてふさわしいと考えた。

なお、会所にあった踏車は、現在歴史民俗資料館に収蔵されている。

② 「平野屋新田会所屋敷地全体想像図」作成

会所の屋敷の様子をサポート会議として描いてみた。

平野屋新田会所は、10年前(2008年2月)に解体され

住宅地になった。現在は北西部の一区画がのこされている。米蔵などの礎石部や堀の一部を直接目にする事が出来るが、その全体は、絵図や解体後の写真でしか残されていない。

そこで、サポート会議は、「高松会所(平野屋会所)絵図(大正7年写し)」と発掘調査書「平野屋新田会所跡全体図」や写真を参考にして屋敷地全体想像図を描き、会所の様子を表してみた。細部はもちろん不確かさはあるが、平野屋新田会所跡への関心の高まりの一助にと考えている。

22ページの『ひらのや新田会所かわらばん』の第2号を参照

③ 「大東の観光(ひかり)」講演会で活動を報告

・会場:大東市立生涯学習センターアクロス 4階 特別会議室

・期日:平成29年 10月 29日

・概要: 古堤街道、三箇キリシタン、平野屋新田会所のテーマが設定され、サポート会議は、新田開発があった前後から大東市域は注目を浴びていたことを示しながら、新田開発に至る歴史や開発後の新田と平野屋会所の紹介を行った。さらに、平野屋会所文書に描かれている水路や樋門、用排水の様子とその現状を比べながらの調査に取り組んでいることを報告した。

5 会所跡の草刈作業

今年度は、以下の3回の作業と随時の見回りと清掃を実施した。

6月 3日 午前9時30分~12時

8月 18日 午前9時30分~12時

10月 11日 午前9時~12時

会所遺跡地は年々雑草の量が増してきている。また、中に人が侵入した痕跡や石積みの劣化が見られることから、保存作業の早急な実施が待たれる。



草取り作業

《4》水路調査活動

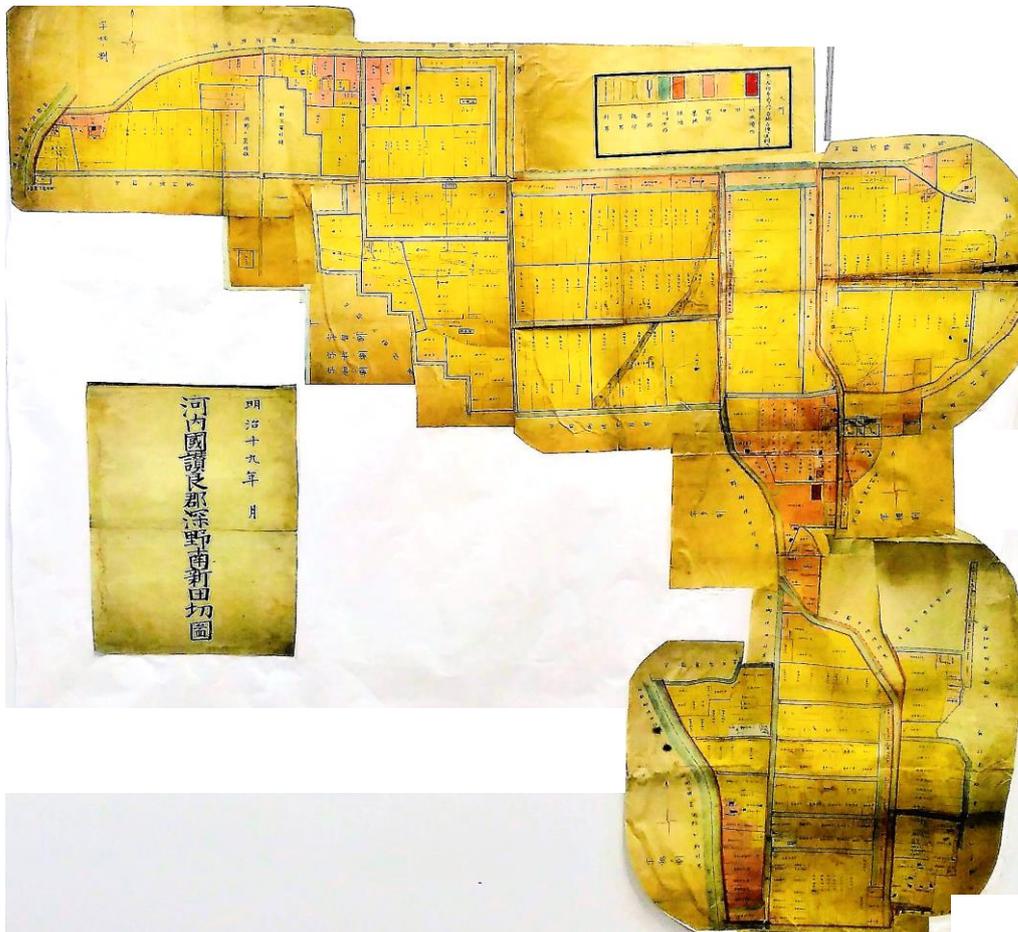
市内の新田地図は、平成2年(1990)に市立歴史民俗資料館に於いて開催された特別展「近世大東の新田開発」に合わせて作成されている。それを参考に平成28年市制施行60周年記念特別展「よみがえる平野屋新田会所」で深野3新田部分を作り直した。

その過程で、新田開発時の深野池の範囲や水路などの詳細は、まだ不明な部分が多いことがわかった。その後、「平野屋会所文書」などが発行されていくなかで、江戸時代の大東の様子が次第に明らかになってきた。その一つとして4大動脈の水路とそこに作られた樋、それらにまつわる出来事が描かれている。

そこには、私たち大東の先人が新田開発と厳しい水とのたたかいに立ち向かう喜びや苦勞が生き生きと表されている。

そこで、私たちは、明治19年(1886)の「字切絵図」(大東市課税課所蔵)を参考にしながら、今も残る新田水路・樋門などを調査し、今日につながる大東市域の原風景を後世にのこしていきたいと考えている。

下記の字切絵図は、深野南新田全図で明治19年(1886)に作成されたもの。



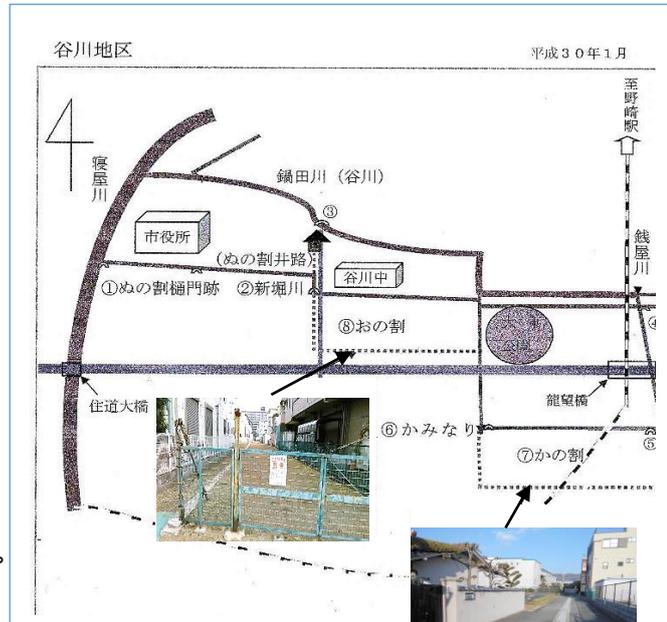
平野屋新田域の字切の図を張り合わせたもの

1 谷川地区水路調査報告

《谷川グループ：木原・柴田・地引・林田・藤井・中西・福本・宮本》

- ・平野屋新田会所での管理の中で、北部地区に位置する「谷川地区」は、「深野南新田」に組み入れられていた。
- ・地区の「用水・悪水」は、すべて「銭屋川」「鍋田川」「寝屋川」「新堀川」に依存していた。
- ・「深野南新田」の東部に位置する「寺川地区」から派生する「悪水」は、「廿田川」で集め「阪奈自動車教習所」の北側の「④ふたつ橋樋」で南から流れ込む「銭屋川悪水」を集め西へ流れていた。

- ・「新堀川」と名付けられた古井路と「寝屋川」との接点に「①ぬの割樋」が設置され通常は「新堀川悪水」を寝屋川へ排出する役目であったが、昭和 30 年頃から東大阪地区から北に流れ込んでいる「恩智川」の水質が悪化し、昭和 33 年には稲の生育に支障を来すため「①のぬの割樋」から寝屋川の水を「用水」として新堀川に取り込みポンプアップして各田んぼに注入していた時もあった。
- ・「谷川地区」の用水は北の「鍋田川」



- から直接水車やポンプアップで田んぼへ注入するか、東の「鍋田川」や「新堀川」の「悪用水」を利用していたとの事である。
- ・「鍋田川」の南沿いにある旧三軒屋集落は、隣接する様に「三箇村飛び地」があり、地区を区別する井路跡や樋門跡の伝承等も残された図面等とも一致した。
- ・「鍋田川」南沿いの「③の割樋門」からは現在の道路に沿って南北に「新堀川」へと続く井路があったとの事、またその井路から東方面へ「現谷川公民館」前にも井路が道路に平行して設けられていた事を古老の話で知りました。
- ・「新堀川」から「⑧おの割の水路」から「かみなり樋門」を経由し「⑥けんとう樋」へ出て「銭屋川」から平野屋新田会所へ「三枚板舟」で年貢を納めていた古老の話が意義深く感じられた。
- ・「⑥かみなり樋門」から東へ「銭屋川」へと接続する井路は、途中「中北製作所工場内」で暗渠となるが同工場東側の JR との間では現存し JR から東側は空き地で現存される。
- ・「かみなり樋門」から南へ続く「⑦井路」は現在建物の中に埋もれその井路跡は図面に残されているだけで現在 JR や住宅地のため姿を見せない。

①ぬの割樋門



②市役所東別館前樋門



•また平野屋新田会所東地区を北へ流れ付近の悪水を集めて流れる「鍋田川」は、JRの接続付近から本流と井路(埋設化・一部露出部)とに分かれ

- ①「現野崎病院」の北 「現摂津倉庫」南に囲まれた地を通り
- ②「現大東公園」の北を西へ
- ③「現大東公園」の西で北へ流れる「本流」と西へ流れる「新堀川」井路に分岐する。
- ④北へ流れる「鍋田川本流」と井路は「現谷川第2集会所」で本流及び住宅地間を道路化された井路が西へ
- ⑤「現大東市役所」北で「谷田川」と合流した「鍋田川」本流は「鍋田川」として「寝屋川」へと流れ込んでいる。

この様に天井川「鍋田川」を巧みに井路化して利用した跡が平野屋新田会所の経営に具されていたのではなかろうか?と判断される。

2 平野屋・平野屋新町地区水路調査報告

《平野屋・平野屋新町グループ:飯塚・河村・水永・今井・大藪・高見・中下・中村》

この地区は、会所屋敷や開発当初からの住居が置かれていることから、水路の姿は変化が少ないようだ。江戸時代に描かれた水路絵図や明治時代の字切り図の水路がほぼ同じように残されている。また、又の文字が刻まれている「境界石」が在る小さな水路も現役で使われている。

調査中、古くからお住いの方が、長時間いろいろな話を聞かせてくれた。現在は見られない樋門があった場所を教えて頂けた。今後複数の情報をてらし合わせて確認できたらとおもった。この地区には、開発当初の周辺村との水争いの結果、重要な裁定が下された「中垣内浜にある樋門」が在る場所で、その樋門がどこにあったのかまだ分かっていない。今後の調査が期待される場所である。

3 南新田地区水路調査報告

《南新田グループ:中村、世良、小林、木岡、池野、矢谷、下村、志村、豊芦》

私たち水路南チームは「字切絵図」を参考にしながら討議をし、現地調査を行った。

深野南新田の南側は、恩智川・12号水路(四間井路)・銭屋川(その割井路)があり、大きくいって重要なポイントになる。

そこで、(1)現状の水路は……。 (2)当時の水の流れは……。の2点を共通課題として調査をした。

そこで解ったことは、かつての12号水路は恩智川から用水として取り入れ、銭屋川は東側(七軒屋新田)の方の悪水を流し、計画的に南から北へ最終的に寝屋川に流していたのである。



地図を見ながらの調査と作業風景

しかし、その流れも昭和33年に恩智川が、現東大阪市の側からの水質汚染で用水として使えなくなり、逆に寝屋川から用水を取り入れ、恩智川に流している事が解った。

野口貢氏(平野屋在住)が、「戦後間もなくして恩智川が赤水になって使えなくなったので寝屋川からの水を引いた。待樋で水位を上げ用水にした。

寝屋川からの綺麗な水が来た時のことをよう覚えている。」と語っているように、そのことを端的に物語っている。

調査はこれからである。まだまだ興味深いことがあるかもしれない。



中村さんをチームリーダーとして地図落としや現地調査など初めての体験をし、新田開発当手を思い起こすことになった。

日程が合わず参加できない方もあったが引き続き交流部会の交流に繋がっていきたい。

(KT)

《5》 四会所交流事業

大阪府内に残る三か所の新田会所で交流事業が行われて来ていたが、一昨年より平野屋新田会所跡が加わり「四会所交流事業」として、交流会議や見学会などの事業を実施している。

29年度は、大東市立生涯学習センターアクロスや摂河泉地域文化研究所、大東市教育委員会などと一緒に、各会所の見学会を開催した。また、4月の「活動報告集会」に加賀屋新田会所の案内活動を続けている「住之江まち案内ボランティアガイド」の實氏にお話しをしていただいた。



加賀屋新田会所
住之江区南加賀屋 4-8-7
06-6683-8151



安中新田会所跡旧植田家住宅
八尾市植松町-1-25
072-992-5311

もう絵葉書を手に入れましたか

四会所交流事業では、四会所巡りのスタンプラリーを実施しています。B4用紙大のスタンプ台紙には、古地図からデザインした地図が描かれていて、各会所のスタンプが捺せるようになっています。四会所を巡りスタンプが集まると、絵葉書のお土産が付いてきます。



鴻池新田会所
東大阪市鴻池元町 2-30
06-6745-6409

Ⅱ 資料

《 1 》

野口貢さんインタビューの詳細

野口貢さんへのインタビューは、平野屋区長さん宅の事務室を提供して頂き行いました。野口さんは、インタビューのなかで「昭和 33 年にサラリーマンになるまでは家におったし、サラリーマンになってからも村の役をやってたから村の事はよう分かってるつもりや。」とおっしゃった通り、確かな記憶と太いお声で質問に明快に答えて下さいました。

戦後すぐのころの会所辺りの思い出

・終戦後学校やめてから家におったとき、役所から測量に来はったのが園芸学校の一年上の先輩で、航空写真を撮って実測するから出来上がったら一枚あげると言っていたが、結局もらえなかった。

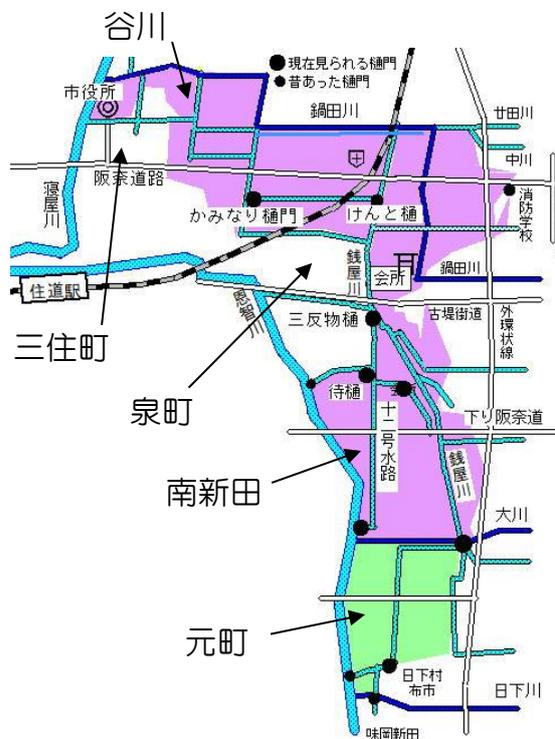
・終戦後も堀は(地主の)高松家のものやと思っていた。測量が入って、初めて淀川左岸土地改良区の土地やとわかった。

・古堤街道と長屋門の間は高松の畑で、三反くらいあった。松の木が生えて参道みたいやった。

・参道の東側は橋本うどん屋の土地。参道は昔は無かったと聞いたことがある。祭りの時だけ道つけて、地車が宮さんに入るために川に橋を架けてたと。そのあとは石橋にかわった。いまでも掘ったら石橋が出るはずですよ。下水工事の時に見たと思うわ。

・橋の欄干は地蔵さんのところに一部残ってる。

・(地主の)高松がつくった橋は全部石橋だった。



永代掘りのこと

・銭屋川は流れ川、十二号水路は溜まったままの悪水井路だ。恩智川から水を入れることはなかった。入れたら恩智川がカラカラになってしまうから。

・銭屋川の永代掘り(砂上げ)は、三反物の樋あたりから鉄道と交差するところあたりまでやっていた。時期は、4月末から5月初旬に。担当はしょうぎいん(評議員か)と土木年行司が耕作面積に応じて割り当てていた。宮さんの倉庫の一番奥に書類がある。

・かみなり樋門の方は閉じるので土砂は入らない。

・鍋田川の砂上げは橋本さんが全部やって、北本建材に売っていた。他の村の人は了解していた。

年貢・供出米の収納のこと

南新田は十二号水路から船で年貢を納めていた。

・戦後の米の供出のときに会所の倉庫に一旦入れていた。そのあとは農協に、農協に入らない場合は庭窪の倉庫に持っていった。

・スコップをもって、ひどいところは三尺くらい掘り下げることもあった。病気で出られない家は、金を払うこともあったと思う。

・谷川から元町までの永代掘りをする道具や水防関係の道具類は三反物の樋のそばの小屋にあった。

洪水と樋門・用水

・樋門には樋守と言う担当者がいて手当てをもらっていた。樋守は6軒で担当していた。

・大雨の時は「けんと樋」を一番先に下した。「けんと樋」を下さんと市役所や泉町、三住町まで全部浸かってしまう。「けんと樋」は今でも残っておる。掘ったら出て来る。

・泉町（銭屋川の西側）が浸からんように恩智川にポンプアップしていた。

・（鍋田川は）中垣内の大西家の東側でよく決壊していた。

・銭屋川の堤防は、西側は粘土で固め、東側は砂で出来ていた。つくるときにうまいこと考えられていた。

・中垣内は落合橋から中垣内の墓付近までポンプアップして田んぼに水を入れていた。

阪奈道路と東住道駅

・阪奈道路は、昭和7年に大軌（大阪電気軌道）が大阪府に売り払ったもの。大阪府は道路にしようとして道を倍に広げたのを覚えている。

・東住道駅は、周辺の田んぼ、自分の家のものもあったが、掘り下げて池にして、その土を盛ってつくった。駅から道（阪奈道路）へ上がるために木材で階段をつくっていた。池の水はきれいでよく泳いだ。池田の園芸学校にもこの駅から電車に乗って通学していた。

だんじり曳きの手伝い

・終戦ごろは平野屋40軒くらい。谷川は15軒くらい、南新田と元町とで40軒くらいで、地車のときは、谷川に5人から7人くらい応援に行っていた。



インタビューの様子(右:野口貢さん)
12月22日区長の野口昇さん宅事務所にて

余話 進駐軍の思い出

・終戦後は消防学校のところに進駐軍が来たので、「近くを通ったらいかん」と言われた。ところが（こどもは学校の帰り道の近くのので）皆、チョコレートやチューインガムがもらえるので近くを通りたかった。進駐軍につかまって中に入れられたことがある。（その時）カバンの中には講談社の戦争の絵を描いた本が入っていたので、こんな見られたらえらいことやと思ったが、かわいがってもらってジープに乗せてもらった。外に出たら皆迎えに来てて、進駐軍

からはチョコレートやチューインガムをようけもらって、出てきたらみんなで取り合いになった。

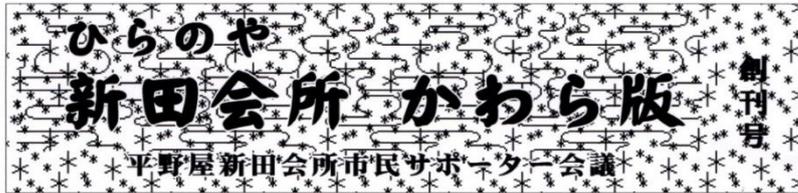
・家の裏にアメリカ兵が3人現れた時は母や姉は押し入れの中に隠れて、（自分だけが）外に出ると「道に迷ったので表の道に案内して欲しい」という事だった。家の中に上げて表へ案内した。

（アメリカ兵が）おじいさんが火鉢でヨモギの葉っぱの煙草を吸っていたのを見て、ポケットの煙草をくれた。

《2》

「ひらのや新田会所かわら版」(縮刷版)

1. 創刊号(2017年9月発行)



平野屋新田会所
市民サポーター会議
広報部 発行
2017年9月
創刊号
編集責任者
中西 昭治

会所の歴史引きつぎたい

「平野屋サポーター一年生」になつて

木岡 陽子(灰塚在住)



木岡陽子さん

二十年くらい前、平野屋に住んでいた友人が、坐摩神社の秋祭りに招待してくれた時、宮入をした三台の地車で華やかだったこと、地元の人々の露店の「豚汁」がおいしかったのを憶えています。同時に平野屋新田会所に案内され、長屋門などの素晴らしかったのも忘れません。大東市にも誇れるものがあると思っていたところです。

そして昨年十一月に、歴史民俗資料館での特別展「よみがえる平野屋新田会所」の企画で、「古堤街道から平野屋新田会所跡へ」に参加し、その同じ場所、新田会所跡に行った時の驚き。二百年以上前からあった多くの建物が無くなり、代わりに一帯は真新しい住宅が並んでいたこと、坐摩神社の鎮守の森が無くなっ



平野屋新田会所の表長屋門。10年ほど前に取り壊されました

ていたこと、大変残念で言葉も出ませんでした。その日同時に資料館で会

所にあった沢山の「踏み車」やその他多くの展示物を見て、よく残っているとびっくりしました。

今残っている会所跡だけでも後々まで残るよう整備し守らなければいけないと思います。市民のみなさんとりわけ高校生や中学生たちにも、平野屋新田会所のことを大東市の歴史として知ってもらわなくてはいいと思います。

会所跡地の整備作業



真夏の太陽の下、会所跡地の雑草の草取りをしました。12人で挑みましたが、ちよこさきつかったですね。

平野屋新田会所の記憶



江戸時代前期まで、大東市域の中央にあった大きな深野池は、干拓され新田として開発されました。新田を水利から収穫、年貢の納入まで管理するための施設が「会所」と呼ばれ、その一つが、「平野屋新田会所」です。管理していたのは今

の街区でいえば、おおよそ南新田、平野屋、谷川、深野南になります。同じ旧大和川水系には当初は約30の新田に分かれて耕作されており、現在まで建物が残っている会所としては、八尾の「安中新田会所」と、東大阪の「鴻池新田会所」があります。



大東市域(赤線)の中での深野池の範囲

平野屋新田会所の土地・建物は、近年まで船場の高松家が所有していましたが、裁判所の競売に付され、平成20年1月取り壊されました。この件で市民団体を中心に保存運動が盛り上がり、たのは記憶に新しいところです。

大東市はその一部476㎡を買取り、将来わたって田舎の錦帯として保存・活用する方法を検討中です。私たちがそんな中で、水路・樋間が多く残っている周辺の自然も視野に入れ、市民の立場での「跡地」の保存活用を考えながら活動しています。

発行された現物は「右開き」ですが
ここでは編集の都合で「左開き」で紹介しします

平野屋新田会所市民サポーター会議

こんな活動を

見学会

資料作成

調査活動

展示会

語りつぎたい
平野屋新田会所ものがたり

林田恵子 (明美の里町在住)



会所跡でガイドする林田さん (中央)

二十数年前、当時まだ学生だったA氏に「大東にも面白い所があると声を掛けられ、一緒に

した先が「平野屋新田会所」でした。立派な表長屋門の前に立ち、見渡した会所の敷地は広大で周りは塀で囲われ鬱蒼とした森のようでした。西側の銭屋川は、黒く濁み空の青さが目に焼き付いています。その後、会所を訪れることもなく表長屋門の記憶は次第に薄れていきました。

平成20年1月、宅建業者によって平野屋新田会所の取り壊された事が伝わってきた時、あの表長

第1回総会を開催しました

平野屋新田会所市民サポーター会議の第一回総会を六月二十日開催しました。役員決のように決めました。
任期は一年です。
会長 水永八十生
副会長 中村 義之
会計 林田 恵子
会計監査 藤井 俊悟

平野屋新田会所市民サポーター会議は、江戸時代の新田開発を象徴する歴史遺産である平野屋新田会所跡の整備と活用に市民

会所 遺構の

保存活用に向けて

大東市教育委員会 生涯学習課

佐々木 拓哉

大東市教育委員会が開講した平野屋新田会所市民サポーター養成講座の受講生を母体に結成された市民協働の組織です。今年で創設から4年目を迎え、現在は20名余りのサポーター

平野屋新田会所の建物は平成20年に失われましたが、会所建物の礎石や井路・樋門など、

さんお手をたずさえて、理解と支援の輪を広げていきたいと思っています。

が、会所跡の魅力を伝えるイベントの開催や地元住民への聞き取り調査などに取り組んでおられます。

会所跡周辺には新田で生きた人々の記憶を伝える様々な痕跡が今も残されています。これらの遺構を、今日の大東市の発展の礎を築いた新田開発の歴史を未来に伝える貴重な文化財として保存活用していくため、今後

屋門と空の青さが私の脳裏に甦りました。その後私は、大東市観光ボランティアガイド「ままびこ」を九名の仲間と共に立ち上げ、大東の観光を追い求めていましたが、教育委員会が市民サポーターを呼びかけていることを知ってこの会にも参加しました。宝永元年、大和川付替え後の湿地帯に新田開発を行うことで大東の礎を築き、大阪に繁栄を齎した「平野屋新田会所」は貴重な歴史遺産であり観光資源にと思い始めていたのです。

隣に住んでいる人々への聞き取り調査を昨年より始めました。この調査は、焦点とする本題よりかけ離れる事が多々ありますが、地域の人々との交流ができ、時代を越え懐かしく温かく接して頂いていて、幾分でも地元の人々の中に入り込めた感じが致します。

私は後世に伝える手段として、水と闘い土地を守ってきた先人達のこの地の足跡を辿るため、近

また、新田開発当初の絵図もひも解きながら、大東の子供達に紙芝居を通して「平野屋新田会所物語」を語りついで生きたいと願っております。

しています 学習会

聞き取り活動

会所雑草と川

三百年前、広大な深野池が新田として開発されました。今でも地図をよく見ると池の形を確かめることができます。この深野新田には総延長五十 km にもなる水路が張り巡らされ、二百を超え数々の大小の樋門が造られています。

深野新田南部の深野南新田と河内屋南新田部分

平野屋新田会所の建物は今はもうありませんが、会所が管理していた田園地帯には、戦後の住宅建築の波が押し寄せたにも拘わらず、水路や樋門はいまだにその姿をとどめていて貴重です。

大東の原風景を探る

水路・樋門の調査が始まりました。
水永八十生（平野屋在住）



深野南町の「かみなり樋門」

には、今も江戸時代に造られた石造樋門と水路（井路）が当時の姿を残しています。さらに新田を管理した会所屋敷跡も二つ残っています。

このように、大東市は江戸時代の新田水路と会所屋敷跡、広大な新田として開発された深野池の地形が丸ごと残り江戸時代の新田開発の姿を実際に見ることのできる珍しい場所でもあるのです。そこで私たちサポーター会議は、水路や樋門の調査を始めようと計画しています。



水路・樋門調査にのりかかる市川先生と会議メンバー

平野屋新田会所市民サポーター会議

活動の記録

平成29年4月～8月
役員会などは省略 ※印は本文参照

- 4月 8日 (土) 定例会
- 4月22日 (土) 平成28年度活動報告会
於市民会館402号室 ※
- 5月13日 (土) 定例会
- 5月29日 (土) 会所跡地 整備作業
- 6月10日 (土) 定例会・
第1回平成29年度総会。 ※
- 7月 8日 (土) 定例会
- 7月16日 (日) アクロスdeサマーフェスタ
2017 へ出展
- 8月6日 (日) 「新田会所のすべて、再発見
シンポジウム」
- 8月12日 (土) 平野屋新田会所・水路調査 ※
- 8月12日 (土) 定例会
- 8月23日 (水) 会所跡地 整備作業 ※
- 8月23日 (水) ～31日 (木) 目で見える大阪
の新田会所 写真展 ※
- 8月24日 (木) 四会所交流会 (※) と
深野新田会所跡見学会

去る八月十二日には、市文化財保護審議会委員の市川秀之氏（滋賀県立大教授）が予備調査され、その後、先生によってサポーターの定例会の場で調査の観点や仕方のお話をさせて頂きました。（上の写真。）

私たちサポーターも新田会所だけでなく水路や樋門の調査に協力し水利や当時の人びとの生活など新田世界まるごとを見つめ直す活動に進もうと計画中です。

四会所交流会

- 鴻池新田会所 東大阪市
- 安中新田会所 八尾市
- 加賀屋新田会所 大阪市住之江区
- 平野屋新田会所 大東市

「鴻池」「安中」「加賀屋」の三会所が進めていた交流事業に、平成二八年から「平野屋」も参加させていただき、四会所でそれぞれの組織の取り組みや行事などの情



報交換が図られてきています。集印地図を持って四つの会所をめぐるスタンプラリーもその一つです。右のスタンプは「平野屋新田会所」のもので、大東市立歴史民俗資料館に置いてあります。

何気ない景色の中に あたらしい発見が

平野屋新田市民サポーター
1年生になってから

世良 悦子 (平野屋在住)



世良 悦子さん

京都から大東市に転居して十三年になりますが、大東市のことは何も知らず、平野屋新田会所も坐摩神社もあまり気にしていませんでした。神社前は当時、小学生だった子どもの遊び場でした。そこで子ども達に「新田会所」のことを覚えていか聞いてみました。

今年四月にこの会が開いた、「平野屋新田会所市民サポーター活動報告会」に参加したことをきっかけに、市民サポーター会議に加入しました。飯盛城も龍間もよく知

小学校の授業で見学に行ったことを話してくれました。その時に「ここは何回か取り壊そうとしたけれど、その度に事故が起こってなかなか取り壊し工事が進まない」と言われたそうです。石の階段と井戸のことを覚えていました。坐摩神社よりの井戸では埋められていたが形は残っていたそうです。私が憶えているのも、その井戸のことくらいです。

知らないで、さっそく市役所で大東市のリーフレットをもらいました。六月はお誘いを受け、堂山古墳群や宝塔神社などを散策してきました。桶門の調査にも参加しました。調査にも参加しました。何気ない景色の中に新しい発見がありました。まだまだ知らないことが多いですが、少しずつでも大東市の歴史に触れることが楽しく、このことがいづれ何かのお役に立てればと思います。

こんな活動をしています



平成28年度活動報告会を開催 4月22日 市民会館にて

4月22日、私たちの1年間の活動報告を大勢の参加の皆さんにさせていただきました。これを機に参加された方もあり、大成功でした。(写真上、その時の中村義之さんの発表の様、写真下、今まで毎年発行している「活動報告書」のバックナンバー)。



目で見る大阪の新田会所の姿 写真展
出展しました 8月23日～31日 アクロスにて

編集後記

この会が産声を上げたのは平成二六年の三月二十五日。結果としてこのパンフはそれから三年半の会の変化を語る、「活動報告書」のような内容になりました。今後の活動がどの方向に、どう進むのが二号・三号の前身に反映されそうです。中西

一緒に活動しませんか

- 毎月1回定例会議
第2土曜日10時～12時
- 市民会館5階 教育委員会会議室
- 年会費 1000円
- お問い合わせ 事務局
大東市教育委員会 生涯学習課

平野屋新田会所

市民サポーター会議

二〇一七年九月十二日発行

事務局

大東市教育委員会

生涯学習課

大東市曙町四番六号

TEL 〇七二八七〇九一〇五

2. 第2号(2018年2月発行)



平野屋新田会所
市民サポーター会議
広報部 発行
2018年2月
第二号
編集責任者
中西 昭治

思いだす
会所のこと 米蔵 一斗杓のこと……

平野屋在住の野口貢さんに話をお聞きしました。

野口さんは、昭和八年のお生まれで、新田開発当初から代々続くお宅として平野屋新田会所そばにお住まいです。そこで、戦中・戦後の新田の会所と、その周辺の様子などをお聞きしました。

— 子どものころは戦争の真っ最中でしたが学校などはどうしたんですか。
旧制の学校に入ったときはよかったですけど、おじいさんが亡くなってバタバタとしたな。米の供出があったので、足らん時は買っても米を出さなあかんかった。
進学は最初職高に入る予定やったが、「百姓やったら百姓の学校へ行け」と言われて府立園芸学校に昭和二十一年に入學した。
— そのころの会所のことを覚えておられますか
年貢を会所に納めていたのは戦争が終わるまで



戦中・戦後の記憶などを熱く語られる野口 貢さん。

— 子どものころは戦争の真っ最中でしたが学校などはどうしたんですか。
旧制の学校に入ったときはよかったですけど、おじいさんが亡くなってバタバタとしたな。米の供出があったので、足らん時は買っても米を出さなあかんかった。
進学は最初職高に入る予定やったが、「百姓やったら百姓の学校へ行け」と言われて府立園芸学校に昭和二十一年に入學した。
— そのころの会所のことを覚えておられますか
年貢を会所に納めていたのは戦争が終わるまで

平野屋在住
野口 貢さん

— 舟は裏長屋門からですか。
なんだから入れていた。裏長屋門の裏の堀に舟が入っているのは見たことないな。堀は長屋門の前辺りまであったと思う。では地車の宮入はどこを通っていたのですか。
今の参道は昔は無かったと聞いたことがある。祭りの時だけ道つけて、地車が宮さんに入るために川に橋を架けていた。そのあと石橋にかわった。
— 用水や井路の砂上げ

— 舟は裏長屋門からですか。
なんだから入れていた。裏長屋門の裏の堀に舟が入っているのは見たことないな。堀は長屋門の前辺りまであったと思う。では地車の宮入はどこを通っていたのですか。
今の参道は昔は無かったと聞いたことがある。祭りの時だけ道つけて、地車が宮さんに入るために川に橋を架けていた。そのあと石橋にかわった。
— 用水や井路の砂上げ

はどうしていたのですか。
戦後まもなくして恩智川が赤水（水質汚染）になって使えなくなったので寝屋川からの水を引いた。待樋で水位を上げ用水にしていた。寝屋川からの綺麗な水が来たときのことをよう覚えているな。
鍋田川の砂上げは業者が商売でやっていた。銭屋川の砂上げ（永代堀り）は三反物の樋あたりから鉄道と交差するあたりまで共同でやっていた。四月末から五月初旬に一反当たり何人と決められていた人数でやった。三尺ぐらい掘り下げることがあったな。
— 舟や樋門の思い出を聞かせてください。
舟は銭屋川を通って鍋田川や寝屋川と行き来できた。大雨の時は銭屋川の「けんとう樋」が一番先におろした。おろさんと市役所や泉町、三住町まで全部浸かってしまう。新田側に水を溢れさせて

平野屋新田会所
市民サポーター会議

平野屋新田会所市民サポーター会議は、市が保有する、平野屋新田会所跡地を文化財として保存活用していくため、市民の理解と支援の輪を広げていながら、4年前から活動している、市民組織です。

野口さんはとてもお元気でいまも仕事で軽トラを乗り回しています。坐摩神社のことや新田の歴史が薄れゆくことを気にかけておいででした。
インタビューはまだまだ続きますが、詳細は「平成二九年度活動報告書」に記載させて頂きます。



空から見た会所跡

平成20年6月6日撮影

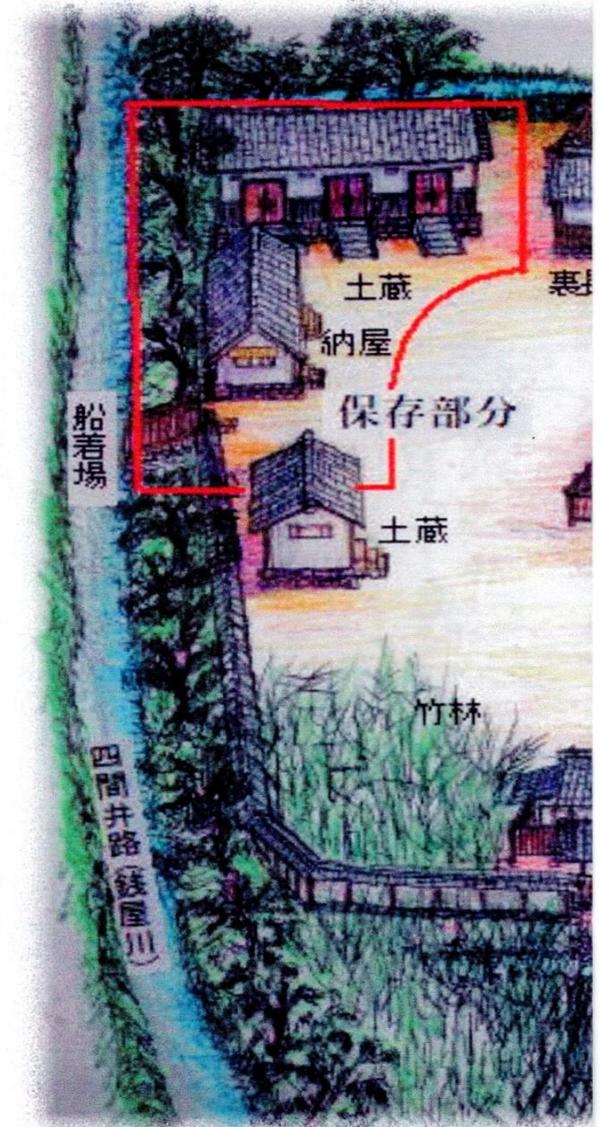
面積：約7200㎡（約2200坪）
 東西 約120m × 南北 約60m
 現在は左上部分（右の想像図では赤枠部分）
 を大東市が保有し、活用を計画中です。



現在の大東市の平野部の半分を占めていた深野池は新田開発によって田畑に替わり、平野屋新田会所の管理する範囲は現在の行政区画でいえば、ほぼ、谷川、平野屋、南新田あたりになります。

お隣には新開池を埋め立てて出来たところに鴻池新田会所建物が現存しています。

よみがえる平



新田会所の役割

新田経営のために置かれた会所には管理人が常駐し、次のことなどを行っていました。

- 小作人の配置、管理
- 年貢の割り振り・取り立てと上納
- 井路・樋門など水利施設の維持、管理
- 新田内の規律保持
- 不作時・災害時の小作人の救済
- 役人や取引先の接待

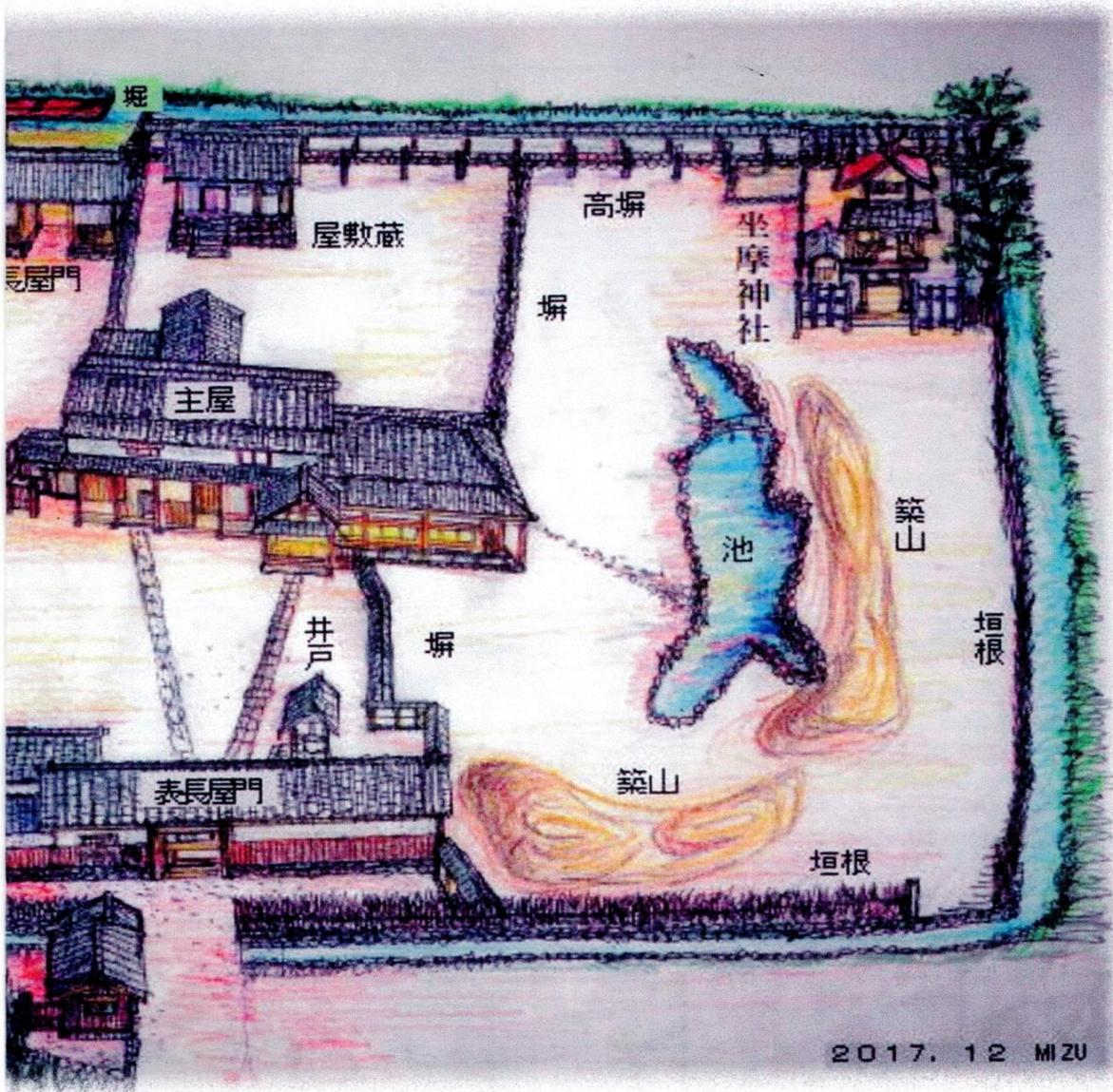
野屋新田会所

屋敷地全体想像図

平野屋新田会所遺跡

約300年前に深野池が埋め立てられ田畑になり、その南部分の地主となった平野屋又衛門が会所を設置し、常駐の支配人を置いて新田の経営にあたらせました。

平成20年に土地所有者によって取り壊されましたが、その一部を市が買い取り（左上部分の赤線内）、現在その有効な活用が検討されているところです。



この図は「高松会所絵図（大正7年写し）」や大東市教育委員会発掘調査書・写真などを参考に描いた想像図です。現在は坐摩神社と堀の一部、左上の赤枠部分建物の礎石を直接見ることができます。築山は、「高松会所絵図」には描かれていません。

平野屋新田会所市民サポーター会議 水永八十生

あの時 何もできなかったわたし

平野屋新田会所市民サポーターになって

矢谷 敬子 南津の辺町在住



び、すっかり様子が変わって
いてガツカリしたので

今から四十五年ほど前、四條畷から御供田まで自転車通勤をしていました。その際、平野屋辺りで立派なお屋敷があったのですが、これが平野屋新田会所という歴史的建造物だと知ったのはその三年後の、大東市に移り住んで間もなくのことです。

平野屋新田会所市民サポーター 活動の記録 平成29年9月から30年1月まで

- 9月 9日(土) 定例会
- 9月 15日(金) 水路調査の3チーム発足
(以下この項については次号に)
- 10月 4日(水) 平野屋新田会所跡地整備作業
(草引き)
- 10月14日(土) 定例会
- 10月16日(月) 連続5回講座「平野屋新田会所
文書を読み解く」下記の記事参照
- 10月26日(木) 現地見学会第1回
「新田会所て どんな建物？」
下記の記事参照
- 11月11日(土) やまびこ主催の「ウォーキング
ラリー」に協力
- 12月 8日(金) 市外団体 見学会のガイド
- 12月 9日(土) 定例会
- 12月19日(火) 四会所交流会 於鴻池新田会所
- 1月13日(土) 定例会

す。行政の手で何とかできなかったのだから、と惜しまれます。きつと保存運動があったらうに、何の行動もしていないでいた自分に情けない思いがしました。なぜ大東市は建物だけでも買収できることができなかったのか。一度取り壊された歴史遺産は元に戻すことはできないのに、と悔しい思いをしていました。

最近、縁あって「平野屋新田会所市民サポーター会議」というのがあることを知りました。何をしているのだろうか？ 何もわからないのですがあの時なにもできなかった自分への反省をこめて、平野屋新田会所のことを少しでもしることができれば、と入会しました。

現地見学会 新田会所って、 どんな建物？

大阪府内に残る三つの新田会所を見学し、その建物と構造について建築史の視点で解説していただきます。

- 安中新田会所跡 植田家住宅
- 鴻池新田会所
- 加賀屋新田会所

他団体と協力して
運営した講座二つ

平野屋新田会所 文書を読み解く

残された古文書から読み解く、深野池開発後の新田の世界や住民の生活などについて四回解説していただきました。

- 深野池の新田開発
- 新田の再検地
- 年貢の変遷
- 用水路の管理と争論
- 平野屋新田住民の生活

講師 岡村喜史先生

編集後記

この一月で会所建物がなくなってしまうと一〇年になります。その土地の約一割の現市有地が今どう生かされるのか待ち続けています。▼周辺の貴重な水路や樋門を含めて地元の皆さんたちと一緒に、住みよい都市に、という大きな視点で考えていきたいですね。中西

一緒に活動しませんか

- 毎月1回定例会議 第2土曜日10時～12時
- 市民会館5階 教育委員会会議室
- 年会費 1000円
- お問い合わせ 事務局 大東市教育委員会 生涯学習課

平野屋新田会所

市民サポーター会議

二〇一八年二月七日発行

事務局

大東市教育委員会 生涯学習課
大東市曙町四番六号
〇七二八七〇九一〇五

おわりに

私たちの大東市にはいろいろな宝物があります。新田開発の歴史と新田会所跡の存在もその一つです。加えて、平野屋新田会所跡の周りには三百年の時間を経た今も、開発当初につくられた水路(井路)や樋門が残されています。都市化の時の動きの中で、12万人の人口を有する都市でありながら、このような水路や樋門が残されている姿は、もう他市には無い貴重な財産となっています。

さらに、「平野屋会所文書」などから、この新田の地で水と土と格闘し水路を守り、食料生産に努力し続けてきた人々の歴史が鮮やかになっています。

この様な、「新田開発のまち」、「新田会所遺跡や水路・樋門が残るまち」、「水と格闘し水を治めてきたまち」、そして「その歴史を伝える文書のあるまち」を市民の誇りとして大切にするため、私たちサポーター会議は平野屋会所遺跡の保存活用の活動を続けています。

平野屋新田会所跡はまだ史跡として未整備の状態ですが、会所遺跡を含め周辺にはいろいろな新田遺跡があります。案内のご希望がありましたら、事務局(裏表紙に記載)にご連絡ください。

また、この報告書を目にいただいた皆様のサポーターへの参加やご意見が得られましたら幸いです。

最後になりましたが、水路調査やインタビューなどに快く応じて頂き、励ましの声までかけていただきました地元の皆様に篤く御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成30年 3 月

平野屋新田会所市民サポーター会議一同

平成 29 年度 平野屋新田会所市民サポーター会議名簿

飯塚 利幸	志村 ミヨ子	中村 義之
池野 都	下地 幸子	林田 恵子
今井 享	地引 道子	福本 勉
大藪 庸子	世良 悦子	藤井 俊悟
河村 共之	高見 庸子	水永八十生
木岡 陽子	豊芦 勝子	宮本 喬
木原 哲也	中下志津子	矢谷 敬子
小林 希子	中西 昭治	
柴田 俊雄	中村 崇明	

平野屋新田会所市民サポーター会議活動報告書

・平成 30 年 3 月 31 日発行

・発行 平野屋新田会所市民サポーター会議 
事務局 大東市教育委員会生涯学習課
〒 574-0076 大東市曙町4番6号
☎ 072-870-9105